

地域計画

策定年月日	令和7年3月12日
更新年月日	令和7年4月15日 (第 1 回)
目標年度	令和11年度
市町村名 (市町村コード)	いわき市 204
地域名 (地域内農業集落名)	大久地区 (大久)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	124.5 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	50.8 ha
② 田の面積	107.2 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	17.3 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.7 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	- ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	- ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	- ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

【現状】

・当地区は、県営農村地域復興再生基盤総合整備事業により基盤整備を実施しており、現在は、担い手に農地を集積し、大規模な水稻栽培を行っている。一方で、地域の農業者においては、いわきの伝統野菜の1つであるじゅうねん(えごま)やブルーベリーの栽培を行っている。また、中山間直接支払制度を活用し、地域全体で営農環境を整備している。

【課題】

・現在の担い手が高齢であり、今後担い手が耕作できなくなった場合に誰が担い手の農地を引き受けるかを検討していく必要がある。
・若者が農業にチャレンジできるように収益性の確保や農作業の省力・軽労化が課題である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

・今後も中山間直接支払制度を活用し、営農環境を整備していく。そのためにも、集落間のネットワークを強化していく。
・スマート農業を活用することで、人力による農作業を減らしていく。
・畑作面積を徐々に増やしていき、減農薬による露地野菜(キャベツ、白菜)を目指していく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・担い手が耕作している農地は現状維持とし、耕作放棄地となりそうな農地については地域全体で保全管理を行う。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	62 %	将来の目標とする集積率	80 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・地元農業者に農地を集約化することを基本とし、場合によっては地区外の新たな担い手にも集約化を図ることを検討する。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
・現在の担い手や認定新規就農者等に集積する。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
・農地中間管理機構の活用を検討する。
(3) 基盤整備事業への取組
・既に実施済みである。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
・新たな担い手を確保できるように、関係機関と連携し、担い手に特化した補助事業の仕組みの構築を目指す。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①地域による鳥獣被害対策として電気柵の維持管理や農道の草刈りを継続していく。
- ②減農薬による野菜の栽培を行うために、JCAPやFGAP等の取得に取組んでいく。
- ③スマート農業を活用していき、人力での作業を減らしていく。
- ⑦中山間直接支払交付金を活用し、水路の維持管理や、圃場や農道の草刈り等を地域で継続していく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和11年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A氏	水稻	18.0 ha	ha	水稻	18.0 ha	ha	A氏	
認農	B氏	水稻	15.2 ha	ha	水稻	15.2 ha	ha	B氏	
認農	C氏	水稻	25.0 ha	ha	水稻	25.0 ha	ha	C氏	
認農	D氏	水稻	16.3 ha	ha	水稻	16.3 ha	ha	D氏	
認農	E氏	水稻	2.1 ha	ha	水稻	2.1 ha	ha	E氏	
計	5経営体		76.6 ha	0 ha		76.6 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

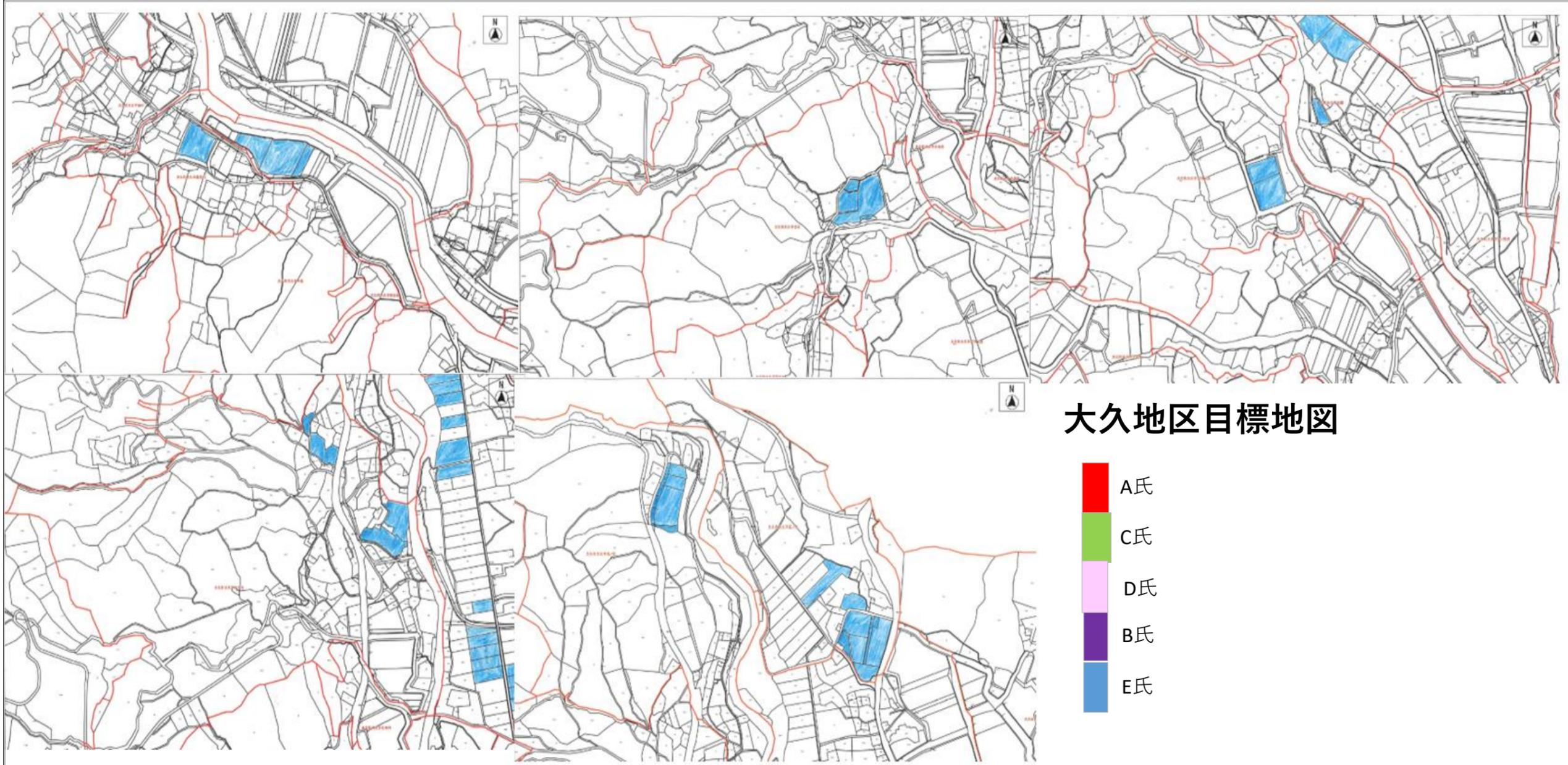
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。



大久地区目標地図

- A氏
- C氏
- D氏
- B氏
- E氏